

第3学年2組 算数科 小数

主な学習内容と予想される児童の反応	本時で見られた深く学び続ける子どもの姿
1 前時学習を想起し、本時のめあてをつかむ。 ・3dL とちょっと ・3dL と半分 ・3dL 40mL 【問題1】 水とうにはいる水のかさを1 dL ますで調べたら、3 dL とあまりがありました。 この水とうには、何 dL の水がはいりますか。 あまりの部分をどのようにあらわせばよいか考えよう。 2 端数部分の表し方を調べる。 ○ 既習内容の振り返りをし、見通しを立てる。 見 方：目盛りを見る 考え方：10 等分にして考える ○ 端数部分の大きさを液量図に表し、水筒に入るかさを表す。 1 dL を 10 等分した 1 つ分のかさ = 0.1dL (れい点一デシリットル) あまりの部分は目盛り 4 つ分 1 dL が 3 つ分で 3dL 0.1dL が 4 つ分で 0.4dL あわせて 3.4dL 〈ポイント〉 0.1dL のいくつかで考える。 0.4 や 3.4 などの数を小数といい、「.」を小数点といいます。また、0.1, 2 などの数を、整数といいます。小数で、小数点のすぐ右の位を小数第一位といいます。 3 問題1のポイントをもとに、練習問題を解く。 ○ 0.1dL のいくつかかを考えながら練習問題を解決する。 〈練習1〉 下の図の水のかさは何 dL ですか。 ① 1.4dL ② 0.4dL 〈練習2〉 次のかさだけ色をぬりましょう。 ① 1.5dL ② 0.9dL 〈練習3〉 ① 0.1dL を 10 こ集めたかさは□dL です。 ② 0.8dL は 0.1dL を□こ集めたかさです。	○ 前時に実際に水の量を調べて、あまりの部分を表せなかったことを想起したことで、本時のめあてを自分で立てる姿が見られた。 ○ これまでに学習した、長さやかさの学習を想起したことで、10 等分の目盛りをつけたり、そのいくつか分で考えたりしたらいいという見通しを持つ姿が見られた。 ○ カウンターを用いたことで、一の位と小数第一位や小数点の意味、小数の仕組みを捉えることができた。 T：水筒に入っていた水の量を表してみよう。 C1：ぴったり入っている方は 1 dL の 3 つ分だから 3 dL。 C2：あまりの部分は 10 等分した目盛り、0.1dL の 3 つ分だから 0.4dL になる。 C3：3 dL と 0.4dL を合わせた数だから 3.4dL になる。
○ 水のかさを図に表し、小数でどのように表せるか問題を出し合い、説明し合う。 【説明】 1 dL が 10 つ分で 1 dL です。 0.1dL が 10 つ分で 1 dL です。 あわせて 1 dL です。 4 本時学習のまとめをし、「今日の学習で」を書く あまりの部分は小数で表すと 1 つの単位でかんたんに表すことができる。 ・あまりの部分を表すには、長さやかさのように 1 を 10 等分にして 0.1 を作ると表すことがわかった。 ・小数を使うと単位が 1 つでいいので簡単になった。 ・小数もたし算やひき算ができるのか学びたい。	○ 自分で問題を作って説明を書く場面を設定したことで、0.1dL のいくつかで考えることを捉え、実際に使う姿が見られた。 【説明】 1 dL が 2 つ分で 2 dL 0.1dL が 5 つ分で 0.5 dL あわせて 2.5 dL です。 【説明】 1 dL が 7 つ分で 7 dL 0.1dL が 2 つ分で 0.2 dL あわせて 7.2 dL です。 【説明】 1 dL が 4 つ分で 4 dL 0.1dL が 7 つ分で 0.7 dL あわせて 4.7 dL です。 ○ 学習の振り返りでは、0.1 のいくつかを使ってこれからも学びたいという記述が見られた。

- 水筒に入っている水を量る活動を行ったことで、表すことができなかったあまりの部分の表し方を考えたいという子どもの姿が見られた。
- 0.1dL のいくつか分と 0.1 のいくつか分という言葉を使ってしまい、子どもの中で混乱してしまった。
- 小数の概念形成の部分であったため、一斉に意味を捉える場面が多くなってしまった。